

2026 年 10 月 2 日

各 位

会社名 SBI グローバルアセットマネジメント株式会社
(コード番号 4765)

(上場取引所 東京証券取引所 プライム市場)

代表者 代表取締役社長 朝倉 智也

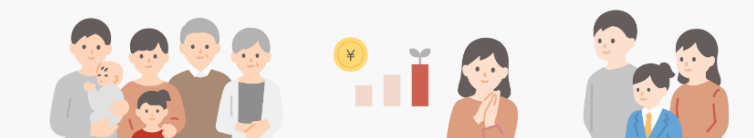
開示責任者 常務執行役員 CFO 小笠原 靖行

世代別 2,000 人のリアル「私たちのお金白書」第 2 弾 公開のお知らせ

当社子会社のレオス・キャピタルワークス株式会社（以下「レオス・キャピタルワークス」）は、全国の 18～79 歳男女を対象にした「資産形成に関する消費者実態調査」の結果をもとに、家族とお金の実態を伝えるシリーズ、世代別 2,000 人のリアル「私たちのお金白書」の第 2 弾を発表いたしましたのでお知らせいたします。第 2 弾のテーマは、投資の日（10 月 4 日）を前に考えたい「投資を前提に生きる世代-20 代のお金事情」です。

世代別2,000人のリアル 第2弾 「私たちのお金白書」

20代のお金事情



■調査結果サマリー

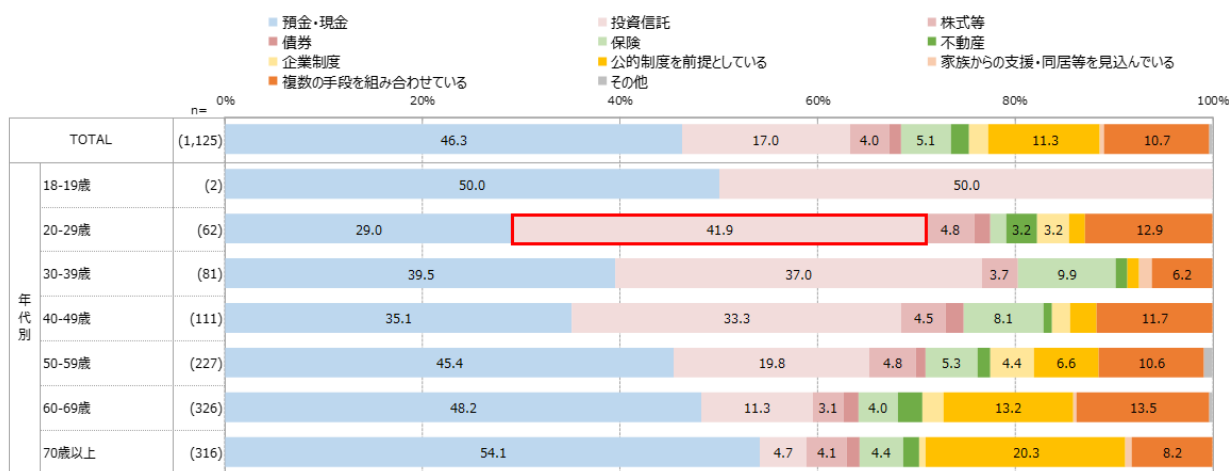
1. 20 代だけが、老後準備として**投資信託（41.9%）**が**預金（29.0%）**を上回る。20 代はもはや「投資を始める世代」ではなく、**投資を前提に人生を設計している世代**
2. NISA（少額投資非課税制度）利用率、20 代・30 代ともに **3 人に 1 人**。18-19 歳（15.6%）から社会入期に倍増。NISA 制度が当たり前の環境で、投資をスタートした、**NISA ネイティブ世代**が登場
3. 20 代の老後の心配ごとで他世代と際立って差がついたのが「**取り崩しタイミング**」（21.3%・全体の約 2 倍）。**積み立てるだけでなく「いつ・どう使うか」「相場の変動にどう向き合うか」まで意識**
4. 父母・友人・職場・SNS と幅広いコミュニティに相談し、**専門家への相談意向 73%は全世代トップ**。「一人で抱えない」という姿勢こそ、他の世代が 20 代から学べるヒントではないか

■調査結果詳細

1. 20代だけで起きている逆転

老後の生活資金の主な準備手段は、全体では「預金・現金」46.3%が「投資信託」17.0%を大きく上回ります。ところが、20代では「投資信託」41.9%、「預金・現金」29.0%と、唯一、投資信託が預金を上回りました。20代はもはや「投資を始める世代」ではなく、投資を前提に人生を設計している世代です。

Q. 「老後の生活資金（生活費中心）」に関して、「準備をしている」とのことですが、主な準備手段（いちばん中心）をそれぞれお選びください。



※3%未満のスコアは非表示

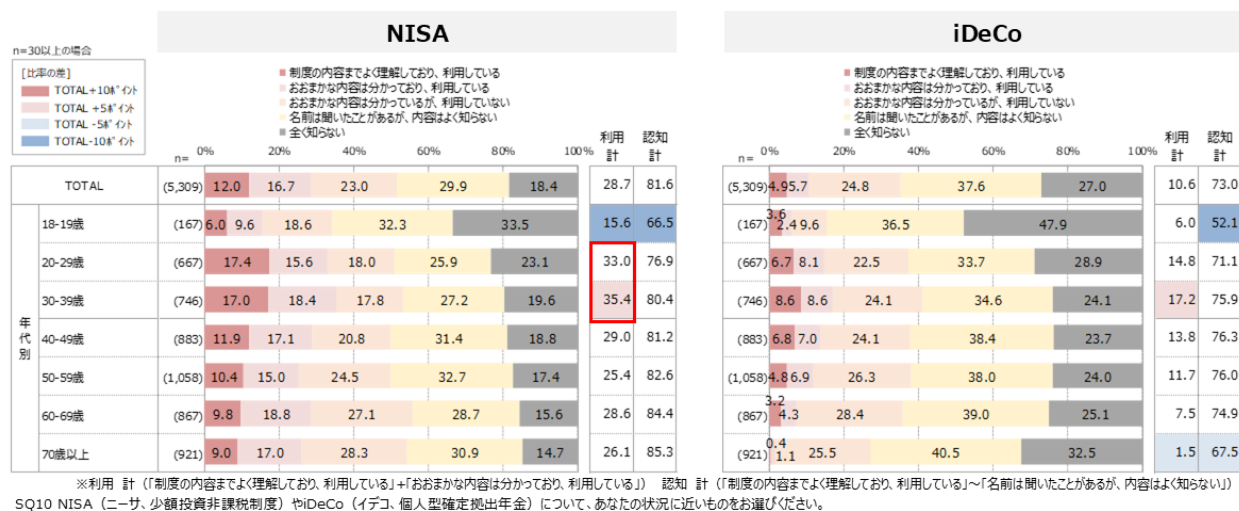
Q25「老後の生活資金（生活費中心）」に関して、「準備をしている」とのことですが、主な準備手段（いちばん中心）をそれぞれお選びください。

各設問の詳細データはP6に記載されております、全データPDFを合わせてご参照ください。

2. 若い世代のNISA活用、3人に1人

また、NISA利用率は20代33.0%・30代35.4%と、若い世代では3人に1人が活用しています。18-19歳時点（15.6%）から社会人期に倍増しており、NISAとともに育ち、社会人になると同時に投資を始める、NISAネイティブ世代が登場しています。

Q. NISA（ニーサ、少額投資非課税制度）やiDeCo（イデコ、個人型確定拠出年金）について、あなたの状況に近いものをお選びください。

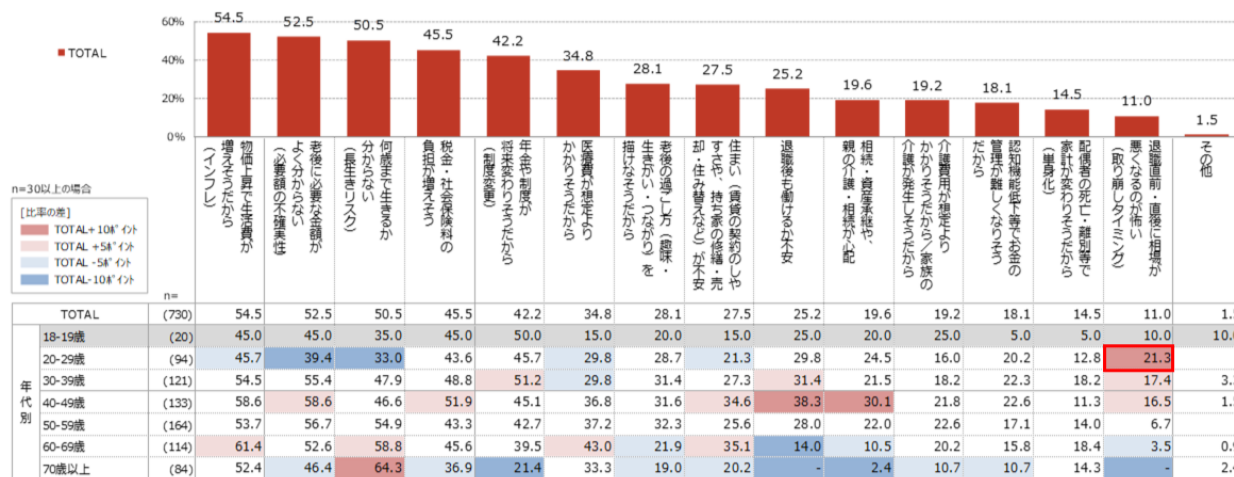


※本設問のみスクリーニング調査（n=5,309）のデータを使用しています。

3. 入口だけでなく、出口まで設計する世代

20代の老後の心配ごとで他世代と大きく差がついたのが「取り崩しタイミング」(21.3%)です。全体(11.0%)の約2倍にのびります。老後までの時間が長いからこそ、より強く不安を感じているのかもしれない。ずっと先の老後に向けて早くから資産形成に取り組むと同時に、**積み立てるだけでなく「いつ・どう使うか」「相場の変動にどう向き合うか」まで意識していることが、投資を前提に生きるこの世代ならではの姿です。**

Q. あなたは老後資金について「不安」とのことですが、その理由をお選びください。



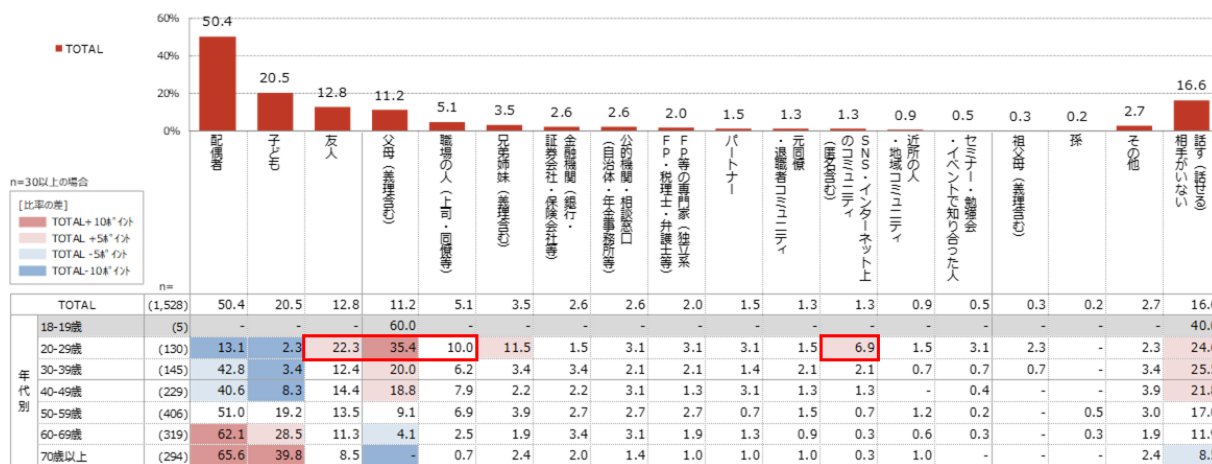
※「TOTAL」で降順ソート ※n=30未満のスコアはグレーアウト

Q6 あなたは老後資金について「不安」とのことですが、その理由をお選びください。

4. この世代に学ぶべきは、投資よりも相談する姿勢

20代はお金の不安を一人で抱え込まない傾向があることも分かりました。不安を話せる相手を探ねると、父母（35.4%）、友人（22.3%）、職場の人（10.0%）と、家族だけにとどまらず幅広いコミュニティに相談しています。他世代では配偶者・子ども・父母といった家族が主な相談相手であるのに対し、20代は家族以外のチャネルも積極的に使っています。特に SNS の活用率は 6.9%と全体（1.3%）の約 5 倍で、リアルとデジタル双方に相談チャネルを持つことがこの世代の特徴です。

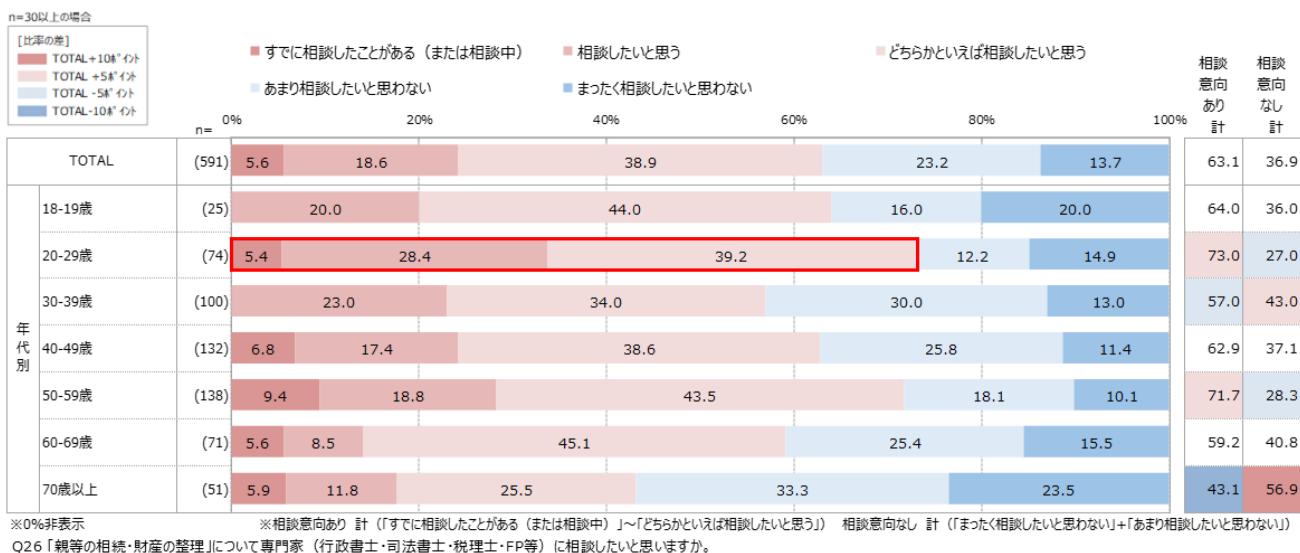
Q. あなたが最も不安と思っていることについて、主に話す（話せる）相手としてあてはまるものをすべてお選びください。



※「TOTAL」で降順ソート ※n=30未満のスコアはグレーアウト
Q31 あなたが最も不安と思っていることについて、主に話す（話せる）相手としてあてはまるものをすべてお選びください。

また、今後相続の承継予定がある方に「親等の相続・財産の整理」について、専門家への相談意向を尋ねると、20代は 73.0%と全世代で最も高い結果でした。「一人で抱えない」という姿勢こそ、他の世代が 20代から学べるヒントではないでしょうか。

Q. 「親等の相続・財産の整理」について、専門家（行政書士・司法書士・税理士・FP等）に相談したいと思いますか。



※0%非表示 ※相談意向あり 計（「すでに相談したことがある（または相談中）」～「どちらかといえば相談したいと思う」） 相談意向なし 計（「まったく相談したいと思わない」+「あまり相談したいと思わない」）
Q26 「親等の相続・財産の整理」について専門家（行政書士・司法書士・税理士・FP等）に相談したいと思いますか。

■「私たちのお金白書」について

全国約 2,000 名への「資産形成に関する消費者実態調査」をもとに、家族とお金の実態と「安心をつくる行動」をシリーズで伝えるレオス・キャピタルワークスの調査白書です。「話したいのに、話せない」一多くの世帯で生じているこの状況に、私たちは注目しました。不安の大きさではなく、安心をつくる行動にフォーカスし、家族やパートナーとお金を話すための「最初的一步」を後押しします。

全調査レポートはこちら：https://www.rheos.jp/research/money-hakusho_vol2.pdf

本白書のバックナンバーはこちら

・第 1 弾（9 月 18 日配信済）：「親子のお金の会話」―相続と家族の対話編―

https://www.rheos.jp/information/news/2026/money-hakusho_vol1.html

■「私たちのお金白書」調査の背景

日本では「お金の話はタブー」とされてきた文化的背景もあり、家族間・夫婦間でのお金に関する会話は避けられがちです。一方で、インフレが続く近年、老後資金・相続・教育資金といったテーマへの不安は年々高まりを見せており、「話したいのに話せない」という状況が多くの方で生じています。

当社は、日々多くのお客様の資産形成に携わる中で、「不安の大きさ」よりも「安心をつくる行動」に注目することが重要だと考えてきました。資産の多寡よりも、家族やパートナーなど、近い人と話し、見通しを持つことが安心につながるという実態をデータで示したいという思いが、本調査の発点です。

今回の調査では全国 18～79 歳の約 2,000 名にご協力いただき、相続・投資・夫婦のお金共有という 3 つのテーマを軸に、「安心をつくる行動」を取っている人とそうでない人の実態を比較・分析しました。「お金」について考えることは、どう生きたいのか、ご自身の人生と向きあうことでもあります。本白書が、家族との「最初のひとこと」を後押しするきっかけとなれば幸いです。

■調査概要

- ・調査主体：レオス・キャピタルワークス株式会社（調査実施機関：株式会社インテージ）
- ・調査方法：インターネット調査
- ・調査対象：全国の 18～79 歳男女
- ・調査期間：

スクリーニング調査：2026 年 4 月 28 日（火）～2026 年 5 月 1 日（金）

本調査①：2026 年 5 月 8 日（金）～2026 年 5 月 9 日（土）

本調査②：2026 年 5 月 8 日（金）～2026 年 5 月 12 日（火）

- ・調査対象人数：スクリーニング：5,309 人 本調査①：2,122 人 本調査②：2,008 人にて分析

※スクリーニング調査は 20,777 人を回収しておりますが、そのうち日本の性年代構成比に合わせて抽出した 5,309 人を分析対象としております

- ・調査設問数：スクリーニング：16 問 本調査①：56 問 本調査②：69 問

※本調査聴取項目が多くあり、本調査はテーマ別に①夫婦・パートナー間のお金の意識、生活資金・老後資金に対する考え、子育て終了世代の教育資金の振り返り ②老後資金の見通しと不安、家族間の相続に対する考えと準備状況、現役子育て世代の教育資金の実態などに分けて聴取

【クレジット表記のお願い】

本資料の調査データを転載いただく際には、出典として、下記を表記くださいますようお願い申し上げます。

世代別 2,000 人のリアル「私たちのお金白書」（レオス・キャピタルワークス作成）

詳細はレオス・キャピタルワークス株式会社が発表したプレスリリースをご参照ください。

https://www.rheos.jp/information/news/2026/money-hakusho_vol2.html

<ご注意>

ニュースリリースの内容は開示時点における情報を基に作成しており、内容の正確性・完全性を保証するものではなく、また記載されている内容は予告なく変更される場合があります。投資信託は預金等や保険契約とは異なり金利や相場等の変動により、元本欠損が生じる可能性があります。投資信託毎にリスクや費用等は異なるため、ご購入の際は、事前に投資信託説明書（交付目論見書）、目論見書補完書面等の内容を十分にお読みください。

※レオス・キャピタルワークス株式会社は、2026年12月1日付で「SBIレオス・キャピタルワークス株式会社」へ商号変更を予定しております。

*****【本件に関するお問い合わせ先】*****
SBIグローバルアセットマネジメント株式会社 管理本部 電話:03(6229)0812 メールアドレス: sbigam@sbiglobalam.co.jp
レオス・キャピタルワークス株式会社 経営企画部 電話:03(6266)0124
(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第1151号、加入協会:一般社団法人資産運用業協会会員)